

# 医療法人名南会 第63回定時総会特集号



第600号(部内資料)  
(毎月1回、1日発行)

発行  
医療法人 名南会  
名古屋市南区豊田  
五丁目15番18号  
発行責任者  
小岩 朋宏  
☎052-692-2388

## 第63回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第63回定時社員総会」を開催いたしますので  
ご通知申し上げます。

2024年4月 医療法人名南会  
理事長 大森 久紀

●日時: 2024年 5月25日(土)

■開場・受付開始 午後2時30分

■総会議事 午後3時～4時30分

※本総会は、今のところ2019年コロナ禍前と同じく制限なしでの開催を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては短時間の開催とするなど内容を変更する場合があります。

■場所 金山・労働会館  
東館 2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7  
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



## ● 2023年度の各事業所の活動のふりかえり ●

### 名南病院

2023年度の名南病院は「人権・公正・ジェンダー平等をかがげ、無差別平等な医療を地域で実践する。最も困難な人々を、まず診る・援助する・チームでなんとかする病院」をビジョンに掲げ、事業活動を進めてきました。

1 入院医療: 2023年度上半期は新型コロナウイルス感染症の入院患者を受入れする重点医療機関として、コロナ病床を最大8床(5類となった5/8以降は6床)確保し、発熱外来、法人内、地域の施設からのコロナ陽性患者さんを受入れました。確保病床指定が終了した下半期以降も、ベッド状況に応じて新型コロナウイルス感染症患者さんの受入れを継続しました。第9波、第10波ともに病棟でのクラスターが発生、病棟機能を制限し運用を行ったため、補助金の減少とあわせて、経営的には大きな打撃となりました。10月以降は平均病床稼働149床で予算を組み、病床稼働を段階的に引き上げました。新入院数は147件/月(昨年比+11件)と昨年度を上回る件数を確保できました。近隣病院、特養との連携が進み、全入院の33.7%(昨年比+10.4%)を占めています。

2022年度に名古屋市医師会の認知症対応モデル病院に認定され、今年度から地域包括ケア病床デイルームでのレクリエーション療法を再開し、クリスマス企画を行いました。入院患者さんの高齢化が進む中、地域包括ケア・退院支援・在宅復帰支援の体制を強化し、入院時に退院目標を設定するための多職種カンファレンスを継続して行います。

2 外来医療: 引き続き発熱外来を月曜日から土曜日まで設置し、第9波、第10波のピーク時は、1日約40名の患者さんが連日受診されまし

た。行政からの依頼の緊急往診を行う等、職員一丸となって最大限の努力を行いました。コロナワクチンも昨年度に引き続き、午後の時間帯の特診で予防接種を行いました。主治医が慢性疾患管理、運動や食事などの生活習慣、服薬状況、健診・予防接種、介護保険の管理・相談まで、病気から生活全般を支える「かかりつけ医療」を継続して行っています。

名南病院への通院に関わる困難をサポートするとりくみとして、職員による送迎も4年目を迎え、通院から在宅・往診へシフトされる方への対応も行っています。地域のニーズもあり、訪問リハビリを大幅に強化しました。2024年度も隔離による発熱外来を継続し、感染拡大を防ぎながら、地域のかかりつけ機能の更なる強化を進めていきます。

3 医師の確保と養成: 「法人医師確保プロジェクト」は常勤医師採用を目標に面談を強化してきました。2023年度の常勤医師の採用はありませんでしたが、医学生実習を積極的に受け入れました。法人全体で24名の医学生実習を受け入れ、名南病院での実習をきっかけとして、名古屋市立大学で奨学生が誕生するなど、2023年度は愛知民医連では9名の医学生が新たに奨学生となりました。引き続き医学対活動を後継者対策の重要な位置づけとして強化していきます。

4 地域組織活動: 友の会拡大目標を500人とし、職員の声かけを強化しました。地域訪問行動は1年で6回実施しました。資金募集運動は、待合室椅子への表示、外来ディスプレイの活用を継続しました。3,600万円の年間目標を達成し、4,000万円超え名南会協同基金へのご協力をいただきました。友の会が広がり、特定健診は昨年度を上回る見込みとなっています。「まちかどなんでも相談会」(いのちの相談所)を3ヶ月に1度のペースで継続開催し、医師、弁護

士、看護師、MSWが参加、地域の方の相談を受けています。

5 地域連携・無料低額診療事業: 近隣病院、開業医、施設等に訪問・懇談を実施し、2023年度末で5つの在宅専門診療所との強化型在宅医療協力医療機関に関する協定を締結しています。2023年度の無料低額診療事業相談件数は390件(昨年比+69件)、新規承認54件(前年比+10件)となり、厳しい社会状況を反映されています。入管法改定問題が注目される中、名南病院の無低診、外国人医療支援の取材を受け、TBS、名古屋、東海テレビ、朝日新聞、共同通信社で報道されました。また病院ホームページからの比較的若い世代の方の問い合わせ、相談数が増加しています。引き続き地域に目を向けた活動を行います。



外来待合室で「名南病院・報道番組」を上映

6 経営活動: 2023年度は病床稼働、日当円が大きく予算解離し、経常利益は約7,800万の赤字となる見込みです。コロナ関連の補助金減少(前年比-約1億6,000万)、特例加算の減算が経営に大きな打撃となっています。経営改善とアフターコロナを見据え、2024年度は病棟機能の再編や診療報酬改定対応を行っていきます。

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

## 名南ふれあい病院 介護医療院名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 ヘルパーステーションきずな

### (2023年度活動のまとめ)

2023年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法上第5類に変更とされましたが感染症そのものがなくなるわけではなく、引き続き対応を求められました。入院・入所では何度かのクラスターの発生の経験を元に対応は感染を大きく拡げないことができるようになってきており、入院および入所をストップさせることなく受け入れられるようにしてきました。

また、リハビリテーションを実施することを目的に入院・入所をしている方が大半であるため、感染が確認された場合でも体調によってはリハビリテーションを実施し身体機能の回復および低下をさせない取り組みをしました。

### (名南ふれあい病院)

回復期リハビリテーション病棟では、他院でリハビリテーションに長く従事されていた吉田医師が2月に新たに着任しました。これまでの経験を活かし当院でも患者さんの身体機能の回復が期待されます。年度末の3月にはコロナのため延期されていた病院機能評価の受審(更新)をしました。これは医療の質を改善していくために

必要であり患者さんにとって安全・安心な医療を受けて頂くために重要なこととなります。

### (名南介護老人保健施設かたらいの里)

かたらいの里は在宅復帰・在宅療養支援機能の超強化型老健としての役割を果たしてきました。ショートステイや中期間の入所利用をしていただき、リハビリテーションを行うことで身体機能の維持・向上を図り社会の一員として地域で生活を続けられるようにすること、また介護者の負担を軽減することに取り組んでいます。

### (介護医療院名南ふれあい病院)

介護医療院は重介護者の療養と生活の場としての役割を果たしました。長期間ここで生活していく中で人生の最期を迎える方も増えてきています。その人らしい最期をここで迎えられるようターミナルケアに取り組んでいます。

### (介護サービス提供)

訪問・通所サービスにおいては利用者が在宅生活を続けられるようなサービス提供を行ってきました。リハビリテーションと介護の力で利用者が地域の中で安心して暮らすことができるようにしてきました。

### (地域組織活動)

地域に向けてのHPH<sup>(※)</sup>の取り組みは徐々に再開してきています。健康教室は豊田学区は毎月、大磯学区は各月で開催し、ポッチャも楽しんで

もらっています。各回10名前後の参加があり楽しみながら健康づくりを行っています。健康づくりを進める事業所として健康友の会会員のためにポッチャコートを設置しフレイル予防と健康のために体を動かす機会や仲間とのつながり・交流が持てる場所の提供をするようにしました。介護予防はふれあいグループとしての地域における大きな役割と考えていますのでポッチャを広める以外にも今年度からは「元気もりもり体操教室」もはじめました。まだまだ参加者は少ないですが毎月開催していますので筋力の衰えが気になる方は是非ご参加下さい。また、認知症カフェの再開もしました。認知症を持つ方および介護者の方の居場所・寄り合いどころ、相談所と



なるよう参加者をさらに増やしていきます。

「元気もりもり体操教室」

ふれあいグループの主な機能はリハビリテーションと介護です。2023年度は医療・介護サービスはあらたなことを始めることにはなりませんでした。これまで実施していることの質を高めることをしてきました。地域に向けての介護予防、健康づくりの活動は大きく前進した年でした。

(※)HPH：健康増進活動拠点病院

## 名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は名南会の2病院(名南病院・ふれあい病院)、老健かたらいの里、ヘルパーステーションと連携し、予防医療や急性期治療から在宅介護サービスまで、地域の方の生活の多くの場面に関わりながら医療・介護活動を行っています。皆様の【住み慣れたおうちで暮らし続けたい】という思いに寄り添うために、敷地内には訪問看護ステーションきずな、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、デイサービス庵もあり、在宅療養のサポートに力を入れています。

また名南診療所は「在宅療養支援診療所」として365日24時間対応の体制で、体が不自由で通院が困難な方、人工呼吸器や点滴・経管栄養の管理、褥瘡ケア、がん末期を含むターミナル管理から看取りまで、さまざまな医療管理を必要とする方々の在宅療養を法人内外の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの関係機関と協力してサポートしています。

2023年度は【「何かあったらここに相談しよう!」地域(医療機関・地域の方)にそうしてもらえ、頼れる身近な場所に・・・】をキーワードに、各事業所でそれぞれ目標を掲げて活動してきました。5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症となりましたが、訪問診療・外来・通所リハビリやデイサービス利用者のワクチン接種、発熱外来を継続してきました。

### (外来)

地域の高齢化とともに訪問診療への切り替えや施設入所、死亡等により患者数が減少傾向でしたが、発熱外来では新規の方も積極的に受け入れてきました。続くコロナ感染流行により2023年度は1日患者数15.2名/月となりました。外来件数減少に伴い、健診件数も減少傾向ですが、担当者を中心とし積極的に声かけをおこない、年間目標で掲げていた大腸がん

検診200件を達成することができました。

### (保健予防)

特定健診目標280件は、273件と目標まであとわずかでした。2024年度こそは目標件数達成できるよう、継続して声かけをおこなっていきます。

### (訪問診療)

基本断らない姿勢で積極的に受け入れ、新規件数は平均8.9件/月でした。『緩和医療(かんわ)』『嚥下障害・栄養管理(えんげ)』『認知症(にんち)』の3つの『ん』のキーワードを意識し、日々活動に取り組んできました。「依頼は断らない。対応は迅速に」を基本に今後も新規受入を継続していきます。

### (居宅介護支援事業所)

地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう努め、いきいき支援センターからの相談もコンスタントにあり、平均130件/月の件数を維持することが出来ました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にも対応できるよう2024年も努めていきます。

### (通所リハビリ・デイサービス庵)

通所リハビリ、デイサービス庵では、感染対策をしながら初詣や外部のボランティアによる演奏会、カラオケなど、利用者の方々が楽しめる企画を実施してきました。

通所リハビリでは、9月より祝日営業を開始しました。住み慣れた地域で生活を続けて行くことを目標に、今できる事を少しでも長く維持し、利用者様それぞれに役割も持って頂く事を大切にしています。2024年度も皆様に楽しく、生き生きと過ごしていただけるよう、感染予防と併せて今行えるケア・サービス提供をしていきます。

デイサービス庵は、短時間利用の受入れも積極的に受け入れており、3月末時点で管理数の約15%の方が利用なさっています。天気の良い日は少人数で事業所周りの散歩を実施しています。2024年度も閉じこもり防止・日常生活の活性化を目標に、障害のある高齢者にとって楽しい・居心地の良いデイサー

ビスづくりに努めていきます。

### (訪問看護ステーションきずな)

看とりや認知症、医療依存度の高い利用者様など積極的に受け入れました。退院前カンファレンスに参加し入院から在宅へ切れ目のない支援を行っています。5月にコロナが5類となりましたが、感染対策は継続し感染予防に努めました。スタッフ4名がコロナに感染しましたが、訪問日時を調整し利用者様への影響が最小となるよう努めました。利用者様やご家族のコロナ感染による訪問利用の控えもありました。2023年度も新規利用者様の依頼は途切れることなく頂き(新規件数は平均3.9件/月)、訪問看護きずなは地域で頼られる存在となっていると感じています。

名南診療所との医療連携が取れるステーションとしての認知度が浸透し、医療依存度の高い療養者様や、住み慣れた地域・ご自宅で安心して暮らしたい、最期を迎えたいという要望にお応えできるように看護体制を維持しながら、地域から選ばれる訪問看護となるよう、今後一層の努力をしていきます。

### (地域組織活動)

名南診療所支部役員の方々と診療所付近の友の会マップづくりをおこない、地域の状況を確認しました。訪問行動は支部役員の方々と合計11回実施しました。2023年度は、全部署からさまざまな職種の職員が訪問行動に参加することができました。地域懇談会に参加してくださった方への友の会加入のお誘いもおこない新たな加入や「基金通帳」協力などの成果がありました。診療所の休診日を利用して、毎月第1火曜日に「健康づくり学習会」を開催し、薬の飲み合わせやリハビリ職員による体操をしました。定期開催することで、毎月来てくださる地域の方もいっしょり、毎月楽しく活動しています。協同基金は診察時に大森医師から手渡しでチラシを配布し、呼びかけま



「健康づくり学習会」

した。また、各事業所・部署での直接の声かけやチラシ配布も行ってきました。多くの方にご協力をいただき、年間の目標協力金額の1000万円を大きく上回ることができました。

名南診療所はどんな些細な事でも何か困った事があった際に、「そうだ！とりあえず診療所に相談してみよう！」と提供いただける診療所を目指し2024年度も法人内・法人外の様々な事業所・友の会の皆

様と連携・協力しながら、地域の方々の健康と生活を支えてまいります。

### 中川診療所 有料老人ホームひなた ヘルパーステーションひなた

#### (中川診療所)

外来の2023年度目標は日当円(患者さん一日の単価)の予算達成としました。看護師・事務が山口医師のカルテ補助に定期的に入り、検査や健康診断のお勧めが漏れていないか他職種で確認することを徹底しました。その影響もあり、今年度のエコー検査数が昨年度より76件も多く行う事ができました。また、新型コロナウイルス感染症が5類となった後も発熱外来は継続して行い、新しい患者さんもお断りせずに受け入れてきました。その結果、昨年度の新規患者数191件に対し、今年度は225件と34件も多く受入することができました。しかし5類となった影響で、コロナの検査や感染対策等の診療報酬が下がり、日当円は昨年よりマイナス320円となりました。

また、今年度は带状疱疹ワクチン・肺炎球菌ワクチンを積極的にお勧めしました。肺炎球菌ワクチンは昨年よりプラス50件、带状疱疹ワクチンはプラス11件となりました。ワクチンを受けられる方は増えてきましたが、健康診断については受診率が低く、昨年実績よりも少ない結果となりました。

通所リハビリは、2022年度の新型コロナウイルス感染症のクラスター発生後から利用日数が減ってしまい、それから増やすことがなかなか出来ませんでした。昨年度よりも利用日数がマイナス232日となり、予算を達成することができませんでした。6月には外部の居宅介護支援事業所へ営業に出向き、その後お問い合わせが増え、毎月1件の新規契約を受けることが出来ました。しかし新型コロナウイルス感染症に罹患される方がいらっしゃるとうデイケアを休まれる方も何名かおり利用日数が減ってしまう事が続きました。収益に関しては予算比91.5%と目標には大きく乖離しました。

居宅介護支援事業所は、毎月収益予算を達成することができました。2022年度よりも件数を増やし、また要介護の方の受け入れも多く出来たことが収益予算を達成した要因です。2022年度は毎月約82名の管理でしたが今年度は約103名と増加しました。いきいき支援センターからの依頼はもちろん、今年度は中川診療所からの依頼も多くありました。中川診療所かかりつけの患者さんから介護の相談があったり、診療所職員からの声かけでケアマネ担当になるケースが何件もありました。これは、診療所の中に居宅介護支援事業所があり、連携が取りやすいことによるものです。

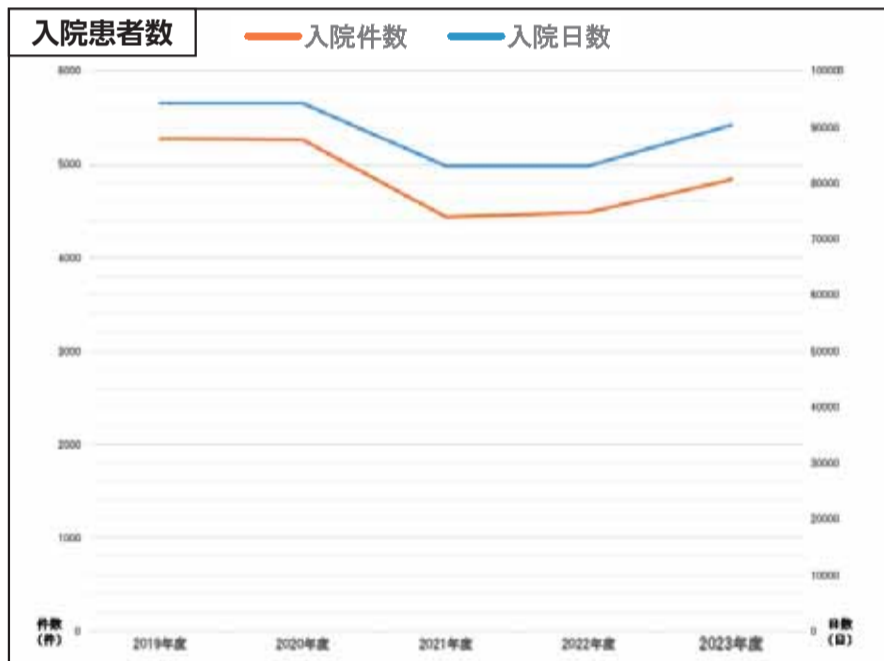
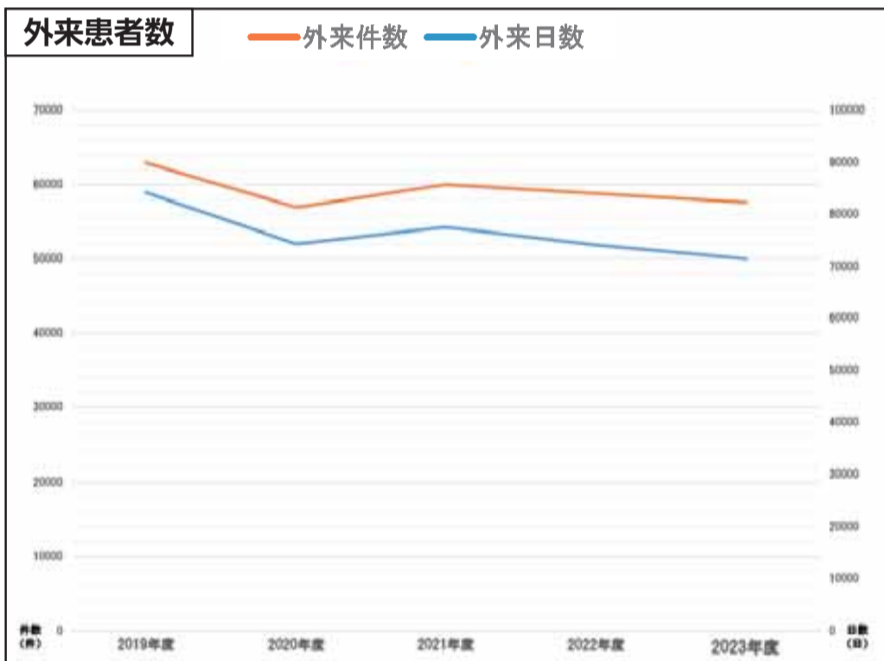
#### (ヘルパーステーションひなた)

ヘルパーステーションひなたは、2022年度よりも利用者数、収益を増やす事が出来ました。上

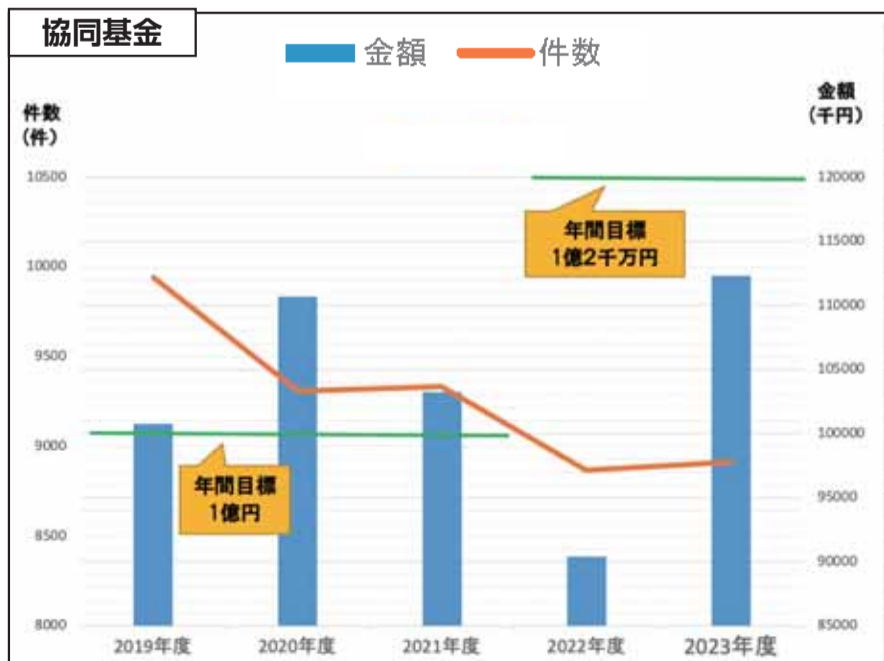
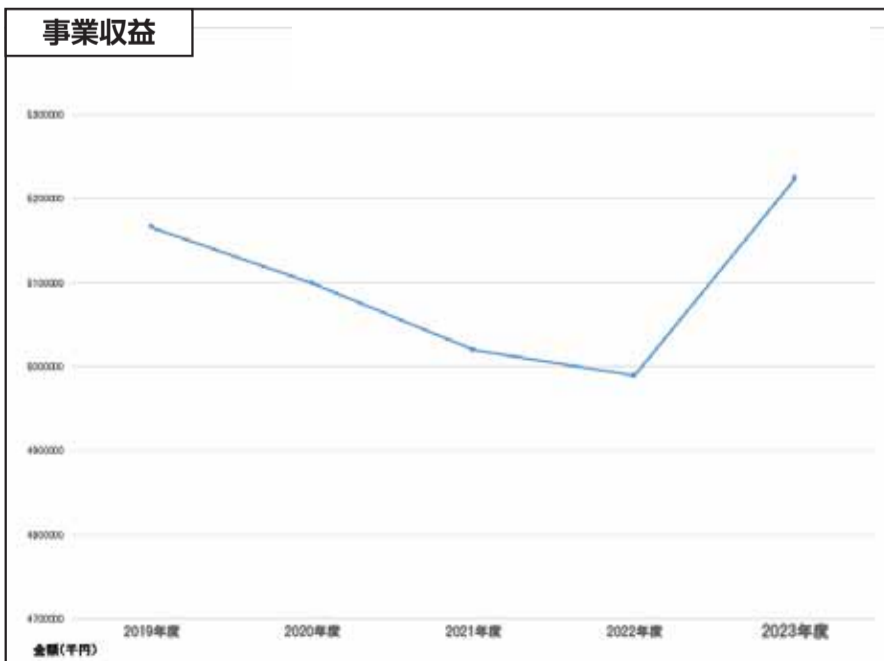
半年は件数を増やす事ができずに収益予算の達成ができませんでした。下半期に入ってからほとんどの月で収益予算を達成することができました。外部への営業活動の成果です。利用希望の方が増えてきていますが、職員体制が追いつかない状況となっています。早急に職員体制を整えて、お断りしない対応をしていきます。

#### (住宅型有料老人ホームひなた)

有料老人ホームひなたは、昨年度の新型コロナウイルス感染症等の影響で退居された方がおり、今年度は1室空室の状態からスタートしました。1室が埋められない中、更にADL(日常生活動作)が落ち、ひなたでの生活が難しくなった方が退去され、8月には1日入居者数16.6名となりました。しかし、名南会からの紹介や、1人で住むのが不安になった地域の方からの問い合わせがあり、入居になった方がいましたので、1月には満室となりました。今般の物価高と、給食業者からの値上げが相次ぎ、2024年度からは食事代を値上げさせて頂く事となりました。昨年度は一日入居者数16.8名でしたが、今年度は17.2名と予算としている17.5名に近づく事ができました。また新たな事業所とも繋がり、ひなたでは難しかった日帰り旅行に行く事ができました。新型コロナウイルスの影響で外出が出来ない時もありましたが、感染が落ち着いている時には外へ出かける事ができました。



法人3事業所及の入院の合計(名南病院・名南ふれあい病院・介護医療院名南ふれあい病院)



# 医療法人名南会 2024年度方針

新型コロナウイルス感染症は、世界的な流行から4年が経過しました。2023年5月以降、感染症法上の位置づけは季節性インフルエンザと同等の5類へ引き下げられ、入院・外来診療の位置づけや公費支援の取り扱いなどが大きく変更されましたが、各事業所では、引き続き外来対応医療機関（発熱者外来診療）やワクチンの接種で役割を果たすとともに、感染対策の経験がある名南病院を中心に入院受け入れを行ってきました。コロナ禍に続く物価高騰で、社会的な困難が広がる中で「なんでも相談会」（いのちの相談所）のとりくみも継続的に行われ、友の会と地域諸団体・企業との共同で行われている子ども食堂とフードパントリーのとりくみでは、4年ぶりに子ども食堂が再開されました。地域の様々なニーズに応え、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を進めるとともに、友の会や地域の様々な団体とも共同して、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

政府の全世代型社会保障構築会議は、少子化対策の財源確保を口実として社会保障削減の工程案を示しました。この中では、2024年度からの介護利用料の2割負担の対象拡大、入院時食事療養負担の値上げ、2028年度までに医療・介護の3割負担の対象拡大、高額療養費の自己負担限度額の見直し、ケアマネジメントの有料化導入の検討などを求めています。また、岸田政権が強力に推進している「医療DX（デジタルトランスフォーメーション）」では、情報の誤登録やひも

付けの誤りなどのトラブルが多発しているにも関わらず、マイナンバーカードとの一元化による健康保険証の廃止について、2024年12月2日に強行する方針を撤回していません。

ロシアによるウクライナ侵攻は2年が経過しましたが、未だに停戦の兆しすらみえません。ガザでの深刻な人道危機では、すでに3万人近い尊いいのちが奪われています。世界中の多くの人びとが、戦争の最大の犠牲者は子どもであり、罪のない一般市民であることを実感し、「ウクライナも、ガザも、戦争をやめよ」の声が広がっています。こうした世界的な大きな流れの中で、地域の軍拡競争を加速させる岸田首相の姿勢は、平和憲法を持つ我が国のリーダーとして相応しいとはいえません。いま、自民党主要5派閥のパーティー券・裏金疑惑が政界を揺るがす一大疑惑に発展しています。「腐敗政治」を転換し、平和と人権・いのち優先の社会をめざす国民的大運動を広げていくことが重要です。

2024年度は第9次長期計画の中間年です。困難な情勢だからこそ、あらゆる活動に「民医連綱領」の立場をつらぬき、断固として経営困難を乗り越え、事業と経営を守り抜くことが2024年度の最重要課題です。医師をはじめとする職員の確保と育成を強化し、第9次長期計画の具体化と実践を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます。



## 2024年度の重点課題方針

### ① 「ケアの倫理」を深め、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を発展させていきます

SDH（健康の社会的決定要因）の視点を持ち、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を進めていきます。人口減少・超高齢社会のもとで、「ケアの倫理」を深め、高齢者の医療・介護を法人の力を集中して強化します。各事業所の機能をいかし、法人内外との連携を抜本的に強化します。各事業所で新型コロナウイルス感染症の外来診療やワクチン接種、名南病院での入院医療などの役割を果たしていきます。

### ③ 全職員と共同組織の力を結集して断固として経営困難を乗り越え、事業と経営を守り抜き、第9次長期計画の具体化を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます

名南会の事業・経営は地域住民が安心して暮らし続けるために存在しています。全職員と共同組織の力を結集して断固として経営困難を乗り越え、事業と経営を守り抜くために、毎月の予算達成を重視し、経営構造の抜本的な改善を図り、名南病院のリニューアルに向けて財務基盤の強化を進めていきます。第9次長期計画の具体化と第10次長期計画の議論を進めていきます。

### ⑤ 医師をはじめとした職員確保を強め、民医連綱領と全日本民医連総会方針を確信に、職員育成と職場づくりを進めていきます

医師、看護師をはじめとした職員の確保と育成を最優先課題として、全職員と共同組織の力を結集して一層強化していきます。職員のいのちと健康をまもることを重視し、働き方の改善、ダイバーシティの推進を進めていきます。全日本民医連の方針学習と「職員育成指針2021年度版」の実践を進めていきます。多様性の尊重・ジェンダー平等や地球環境をまもる課題について、学習をもとに実践を進めていきます。第10次長期計画以降の名南会を展望し、次代の役員・管理者の育成を重視して進めていきます。

### ② 大軍拡をストップさせ、憲法をまもりいかし、人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします

大軍拡をストップさせ、憲法をまもりいかし、国連憲章・国際法に反する暴力・戦争をストップさせるための行動を強めていきます。「現行の保険証を残してください」署名を広げていきます。介護利用料の2割負担の対象拡大、入院時食事療養負担の値上げなど、更なる社会保障削減をストップさせる運動を強めていきます。人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現に向けて、地域へのアウトリーチ、無料低額診療・利用事業を広げていきます。2025年4月に予定されている名古屋市長選挙に向けて要求実現のとりくみを強めていきます。

### ④ 名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます

コロナ禍に続く物価高騰など社会的な困難が広がる中で、地域でのつながりと結びつきが求められています。名南会と健康友の会との共同のとりくみを一層強めながら、相談会・フードパントリーなどのとりくみを進めていきます。班会・健康教室・ポッチャをはじめとする楽しくて元気になるヘルスプロモーション（健康づくり）のとりくみを創造的に進めていきます。友の会会員拡大、協同基金募集、健診運動について目標を持って強めていきます。

## 2023年度 地域組織活動

コロナ禍だからこそ名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、無差別・平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

【はじめに】 2020年2月より拡大した新型コロナウイルス感染症対策による活動自粛のもとで、知恵を出し合い、コロナ禍で工夫してきた活動の発展とコロナ5類への移行による制限緩和で、2023年度は徐々に「みんながつながることができる友の会活動」をすすめ、コロナ前の状態に戻していくことを目標にしました。人とつながり、交流を深める活動の重要性を実感し、「仲間の絆と連帯・共同という民医連の共同組織の活動」が一層必要とされていることが実感できた一年でした。安心して暮らせるまちづくりをすすめるため、あらゆる活動を医療法人名南会・職員と協力共同し、楽しく健康づくりを通じて友の会の仲間を大きく増やすことを最重点課題としました。

### ① 「地域の健康づくり」の運動を事業所と共同組織(友の会)が一体となってすすめてきました

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみをすすめました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診・乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、地域で健康づくりを広げる活動にとりくみました。検診実施数(2月まで)は、特定健診は前年度を上回り、大腸がん検診・乳がん検診は前年度を下回りました。コロナ禍で中止していた日曜健診を名南病院で数年ぶりに再開しました。健康を守る重要な取り組みとして、3年前より始めたバスデー健診の定着拡大と、前年度受診者への確実な働きかけに引き続き努力します。

### ② 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集運動では、引き続き多くの社員・友の会員の皆さんにご協力をいただき、1億1,200万円を超える協同基金が寄せられましたが年間目標(1億2千万円)には到達できませんでした。

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同でとりくみました。物価高騰による生活苦が広がる中であっても、“無差別平等の医療・介護～無料低額診療事業など”に懸命に取り組む名南会の姿を訴える中、マスコミ報道の影響もあり一部で大口協力もありました。同時に、事業所の努力で新規協力職員も増えたり、小口多数の協力を重視し幅広く訴えました。その結果、過去最高であった2020年をも上回る協力金額と協力件数でも前年を上回るなど貴重な成果となりました。

### ③ 友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動を広げてきました。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連事業所と友の会が共同して、無差別平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めてきました。

名南ふれあい病院では、ふれあい喫茶、認知症カフェ(カフェひまわり)を再開しました。名南病院では4月から「ほんわか喫茶」を再開予定です。中川診療所のサロン(なかしんさ

ん)は活動を継続しました。

地域の中の拠点となるたまり場として、ポッチャサロンは地域の新たな交流と健康づくりの場となっています。そして、地

域のつながりづくり、友の会の仲間増やしにも生かされ、友の会の重要な活動として発展しています。9月には、「友の会

第2回ポッチャ大会」が29チーム約90名の参加で開催でき

ました。

ふれあいグループによる豊田学区と大磯学区での健康教室は、専門性を活かして職員も参加し、地域から参加者も増えてきていま

す。

七年目を迎える「ほんわか食堂」は、12月23日4年ぶりに「会食の子ども食堂」を再開しました。フードパントリーも定期的に開催、自

治体・町内会などとも連携と多くのボランティアの協力で、活動を継続させています。コロナ禍における活動としてス

タートした、「なんでも相談所」は、今や4事業所すべてで地域や事業所内で、顧問弁護士の協力、ケースワーカー・看護師など職員と友の会の共同で定期的に行っています。

安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り、生活支援活動が今まで以上に求められています。「お助けプロジェクト」は、ゴミ出し、掃除、通院送迎、公共住宅での住民清掃支援などの利用希望に応じてきました。

11月には、4年ぶりに「秋のバスツアー(敦賀)」を企画、46名が参加しました。



熱戦のポッチャ大会



再開された子ども食堂



フードパントリー



名南病院なんでも相談室

### ④ 平和、くらしを守るとりくみ～みんなで学んで みんなで行動～。ロシアのウクライナ侵攻抗議、 憲法改悪を許さないとりくみ、受療権を守るとりくみ、 社会保障制度の拡充などの運動に全力で取り組みました。

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と健康友の会が「名南会 社保平和委員会」として、これらの運動に共同で取り組んでいます。11月7日には、職員・友の会共同で、久しぶりのスーパー前での署名行動を行いました。



国民平和大道進・南区コース

ロシアによるウクライナ侵攻、ガザの人道危機、岸田政権による大軍拡路線推進のもとで、平和行進(豊橋・蒲郡コース、南区・天白区・中川区コースに参加)、原水爆禁止世界大会(職員2名派遣)、3・1ビキニデー(若

手職員2名派遣)、辺野古支援連帯行動への事務職員派遣などに、積極的に取り組んできました。毎月9日・19日の両病院 社保委員会を中心としたスタンディング行動も継続しています。請願書名は、「現行の健康保険証を残してください署名」に取り組み、1,321名の署名を集めました。

### ⑤ 名南会健康友の会は年間791人の新しい仲間を増やし過去最高の9,793名の会員数となりました。友の会は、会員相互の交流を通じて生きがいや居場所づくりとしての「たまり場」を拠点に活動を広げました。仲間の絆・つながりづくりを重視した会員の要求にそった活動をすすめてきた成果です。

今年度友の会員拡大は、名南会長期計画の目標にそって、従来の年間目標数を大きく引き上げる中、ポッチャ・ウォーキング、健康づくり懇談会(学習会)などサロン活動の中で意識的に



名南診療所・健康づくり学習会

目標をもって取り組み791名(昨年度1.5倍)の友の会員を増やすことができました。近年は自然減(死亡・転居等)が多い中、年間で381名(昨年は94名)の会員純増となり総会員数も過去最高



名南病院支部のウォーキング



緑支部・友の会まつり

となったことは近年にない成果です。

ここ数年、友の会は支部ごとの活動強化に取り組んでいます。みどり・天白支部の活動もより活発になる中、6月には第1回の友の会支部交流会を開催しました。



第1回友の会支部交流会

名南病院地域支部では、道德わいわい広場でのオープン班会、毎週金曜日の「外来行動」などに取り組みました。ふれあい病院支部では、「はみんぐおしゃべりカフェ班」がオープン班会に数回



中川・おしゃべりサロン

取り組む中、班会参加者が増え活発になっています。名南診療所地域では、「健康づくり学習会」、地域訪問を職員・友の会共同で数多く行っています。中川診療所支部では、久しぶりの食事会(たんぼぼ班)、5月には「おしゃべりサロン」も再開しました。緑支部は、8月「第3回平和のつどい」、

11月には「第3回友の会まつり」を開催しました。天白支部では、12月に初めての「まちかどなんでも相談室」を開催しました。



天白支部・なんでも相談会

### ⑥ 10月～12月「秋の共同組織活動月間」は、全体学習も行いながら、多彩な活動を展開、貴重な経験や成果がつけられました。

「月間」の開始にあたり、すべての事業所・地域で「月間スタート集会」を開催し、全支部で活動強化がはかられました。特に、中川診療所地域では、「中川診療所開設40周年」のグッズも作成し、キャンペーンを実施しました。今年の月間は、全支部で目標やそのつど活動の「見える化」を行い、重点課題が大きく前進しました。



中川診療所の協同基金募集ポスター



名南ふれあい病院・月間の宣伝ポスター